

2019年度 後期企画展

自分史上、
想像以上!

「流転の海」展

「流転の海」シリーズ完結記念企画(後編)

—宮本輝文学のつながり・ひろがり—



2019. 10.1 MON — 2020. 3.19 THU

授業期

[開館時間] 9:20-18:10(月~金)

[休館日] 土曜・日曜・祝日 10/22(火)、11/1(金)~4(月)、20(水)~21(木)

※10/14(月)は開館します。

学休期 [12/25(水)~1/5(日)] [1/31(金)~3/19(木)]

[開館時間] 9:20-18:00(月~金)

[休館日] 土曜・日曜・祝日 12/28(土)~1/5(日)、2/1(土)~5(水)、3/4(水)

※詳しくは図書館HPでご確認いただくか、直接図書館にお問い合わせください。

主催: 追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム

後援: 茨木市、茨木市教育委員会、茨木商工会議所、茨木市観光協会

「流転の海」展

「流転の海」シリーズ完結記念企画（後編）

― 宮本輝文学のつながり・ひろがり ―

前期企画展に引き続き、「流転の海」シリーズの全九巻完結を記念する展示を行います。

一九七七年（昭和五二年）に「泥の河」でデビューして以来、宮本輝の作家生活は、既に四二年目を数えます。この間、実にさまざまな作品が世に送り出されてきました。

一方、「流転の海」シリーズは、一九八二年から連載が開始されました。デビューから五年後のことで、昨年の完結まで、三六年間にもわたる営為です。「流転の海」のそれぞれの作品は、作家宮本輝のそれぞれの時代の作品群を縫うように書き継がれてきました。九作品が、宮本輝の作品史のマイルストーンのように置かれています。

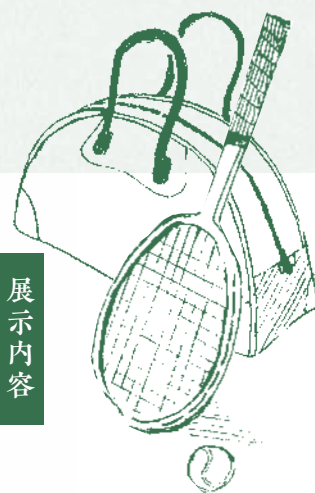
そこで、今回の企画展では、作品同士の類似点を拾い上げ、同じ場所や同じ人物関係が、作品によってどのように書き分けられているのかを見てみたいと思います。

追手門学院大学を舞台にした「青が散る」は一九七八年から連載が始まったものですが、ちょうど四〇年後の昨年に完結した「流転の海」シリーズ最終巻の「野の春」においても、再び取り上げられています。この両作品の比較などは特に興味深いものです。

ぜひ、宮本輝文学の現時点での全体像を、この企画展でお楽しみください。

宮本輝ミュージアム プログラムディレクター

真銅 正宏



展示内容

- 展示作品 作品紹介
- 作品の直筆原稿
- 登場人物相関図
- 「流転の海」シリーズ
- 作品の関連性を知る展示

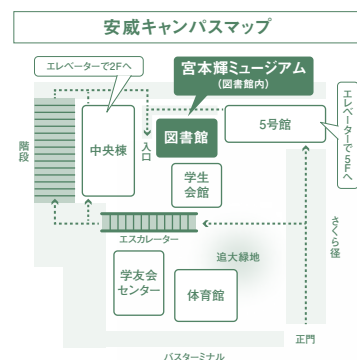
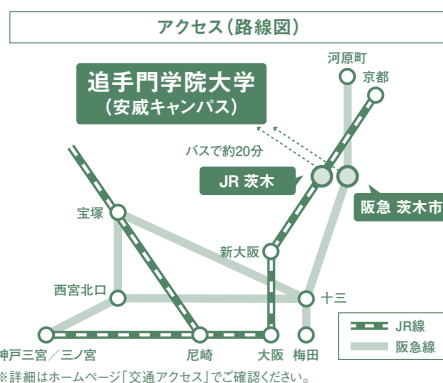
展示作品

- 「血脈の火」
- 「流転の海」第三部
- 新潮社 1996年9月
- 「泥の河」
- 「螢川」
- 筑摩書房 1978年2月
- 「道の堀川」
- 筑摩書房 1981年5月
- 「野の春」
- 「流転の海」第九部
- 新潮社 2018年10月
- 「青が散る」
- 文藝春秋 1982年10月
- 「春の夢」
- 文藝春秋 1984年12月

● 関連性のある作品同士を線でつないでいます

宮本輝ミュージアムについて

宮本輝ミュージアムは、追手門学院大学第1期生で現在も活躍する作家・宮本輝氏とその作品を紹介する場として、2005年5月追手門学院大学附属図書館内に開設しました。宮本輝氏の直筆原稿や、愛用品などを常設展示しているほか、作品をより深く感じていただけるよう、舞台背景の紹介や作品の魅力を伝える展示物などさまざまな角度から掘り下げた企画展を年2回開催しています。



宮本輝ミュージアム（安威キャンパス 追手門学院大学附属図書館内）

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 [開館時間] 図書館開館時間に準ずる。
 TEL: 072-641-9638 FAX: 072-643-9786 ※詳しくはホームページでご確認ください。
 URL: (附属図書館) <http://www.oulib.otemon.ac.jp/>
 (宮本輝ミュージアム) <http://www.oulib.otemon.ac.jp/teru/index.html>



おとうもん
追手門学院大学

URL: <https://www.otemon.ac.jp/>